

尾張旭市における夜間景観のイメージ評価に関する研究

A Study on Night Landscape Image Evaluation of Owari-asahi by SD technique

宇田紀之

UDA Noriyuki

Abstract: The SD technique and factor analysis was applied to the image evaluation of landscape on Owari-asahi City. The feature of night landscape was investigated. It was found that the evaluation of night landscape is low in nearly all categories, by the comparison of the evaluation score of the daytime landscape and night landscape. The factor “Activity” and “Actuality” of daytime landscape are high, the factor “Evaluation” of night landscape was low. It is possible to think that good impression of daytime landscape give a negative impact on the night time evaluation. The large scale natural park and traffic condition also influences on landscape evaluation in this city.

Keywords: SD technique, factor analysis, night landscape, image evaluation,

はじめに

「尾張旭は、なんだか、夜が暗い感じがします。」名古屋から通う学生が言った。確かに、筆者も赴任当初、大学周辺の夜の暗さが気になった。学生が居て、明るく活気のあったキャンパスも、陽が落ちて暗くなると、急に淋しく不安な空間になってしまう。昼間は、くつろぎと安心感を与えてくれる城山自然公園や多度神社の森等の自然環境も、夜間は、薄黒いベールようになって、キャンパスを取り囲む。大袈裟かもしれないが、不気味さを覚えることもあった。「夜が暗い。」という感じは、大学周辺だけでなく、市内のいくつかの場所で感じることである。昼間と夜間で景観の印象が異なることはいうまでもないが、尾張旭市の場合、昼間景観と夜間景観の落差が、大きいように感じたのである。

本研究は、計量的イメージ調査法のひとつであるSD法を用いて、尾張旭市の夜間景観の評価分析を行ったものである。大学周辺だけでなく、尾張旭市内からいくつかの景観評価ポイントを選択し、同地点から撮影した昼間景観と夜間景観を比較することにより、尾張旭市の夜間景観の特徴を分析した。

1. 夜間景観に関する研究

夜間照明の目的は、夜間の明るさを確保して、生

活空間の安全性を高めることであった。しかし、特に、都市部において、住民らの関心は、安全確保から居住環境の美観や生活空間の快適性の追求へと移行してきている。昼間景観と同様に、夜間景観についても関心が持たれるようになってきたのである。行政は、観光開発や省エネルギーの観点から、夜間景観の形成支援に関わってきた。民間・大学においては、照明機器の性能やデザイン、夜間照明の環境効果など景観自体を研究対象とする研究が多くみられるようになった。

1.1 夜間景観施策に関する研究

夜間景観形成事業は、1980年代の観光資源のライトアップブームからはじまったとされる。その後、2004年に景観法の制定により、夜間景観も都市景観形成のもうひとつの重要な局面として注目されるようになる。主に、行政に主導される形でさまざまな事業が展開されてきた。

乙部らは、全国の政令指定都市、地方中核都市54市を対象にヒアリング調査を行い、夜間景観施策の現状と問題点をまとめた。調査によると、52自治体のうち17自治体が、夜間景観整備に関する事業計画や照明規制の条例を持っていたが、全体的に夜間景観施策や整備計画への関心は低い。夜間景観施策としては、景観形成モデル地区を設定してガイドラインに従った照明機器による美しい夜間景観形成を主導する方法がある。夜間景観行政

表1: 景観評価の項目別評価平均

		自然 (昼景)	市街地 (昼景)	自然 (夜景)	市街地 (夜景)
1	賑やかな - さみしい	0.0629	-0.5425	1.0768	0.1085
2	都会的な - 田舎的な	0.7391	-0.5191	0.6306	-0.4115
3	活気のある - 活気のない	0.3051	-0.6076	0.7951	0.1736
4	派手な - 地味な	0.4583	-0.0417	0.8147	0.1519
5	開放的な - 閉鎖的な	-1.0017	-0.1120	0.2491	0.1719
6	刺激的な - 単調な	0.4032	0.1554	0.4701	0.1745
7	好き - 嫌い	-1.0117	-0.3707	-0.2400	0.0642
8	暖かい - 冷たい	-1.1749	-0.4792	0.7726	0.5226
9	目立つ - 目立たない	-0.2925	-0.4523	0.5334	0.1762
10	陽気な - 陰気な	-0.9245	-0.5443	0.8477	0.5434
11	美しい - 酷い	-1.1311	0.0208	-0.1202	0.1068
12	柔らかい - 硬い	-0.9679	0.2144	0.3490	0.4792

の課題として、「景観としての重要性の認識が低い」

「事業効果が不明瞭」「合意形成が難しい」「優先順位が低くコストがまかなえない」等の問題点を指摘している。

尾張旭市は、2000年に「尾張旭都市景観基本計画」を策定し、愛知県は、2006年に「美しい愛知県づくり基本計画」を策定しているが、計画書では夜間景観については触れられていない。愛知県内では、豊田市が夜間景観形成のガイドラインを策定し事業を行っている。

1.2 夜間景観の評価に関する研究

定量的な景観評価手法として、SD法が用いられることが多い。SD法では、景観を評価するための評価尺度として、いくつかの形容詞対を用意しておき、評価サンプルを5段階、あるいは、7段階で評価するものである。評価スコアの平均値や分布によって評価の意味構造を明らかにする。多変量解析を応用することにより、共通因子や寄与度を求めることもできる。

樋口らは、横浜市の夜間景観イメージをSD法で分析し、夜間照明の一番の役割は、オリエンテーションであるとした。そして、「都市の識別のしやすさ」という観点から各地域のランドマークを照明すべきだと主張した。高松は景観照明の効果に対する評価についてSD法を用いて分析し、ライトアップは街や地域の「活性化」・「イメージアップ」に対して、十分効果をもたらしていることを明らかにした。

長山らは金沢市における典型的な景観サンプルを選定し、SD法を用いて昼間景観と夜間景観の評価を比較分析した結果、金沢市は、昼間景観より

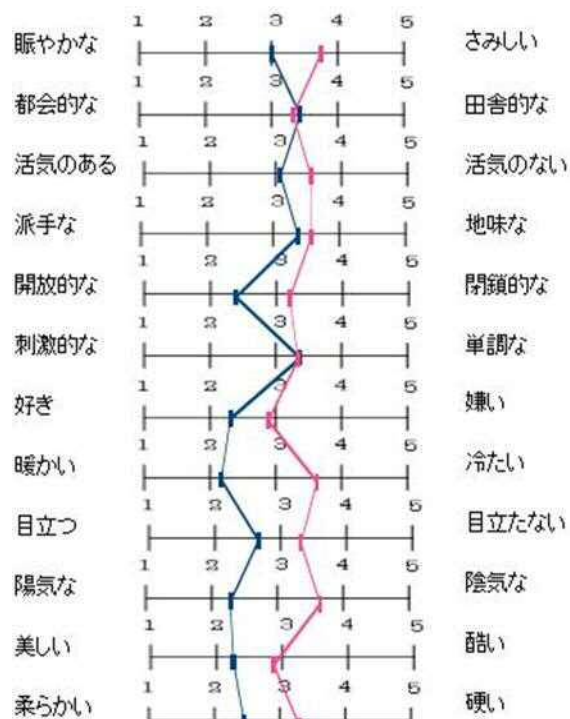


図1 昼間景観と夜間景観の比較

昼間景観: 赤線 夜間景観: 青線

も夜間景観の評価が高いことがわかった。また、夜間景観の評価スコアにもとづく因子分析から、夜間景観の3因子は、「活動性」、「評価性」、「顕在性」であるとした。

2. 評価実験

2.1 目的と方法

本研究の目的は、SD法を用いて尾張旭市における主要景観ポイントの景観評価を行い、傾向分析

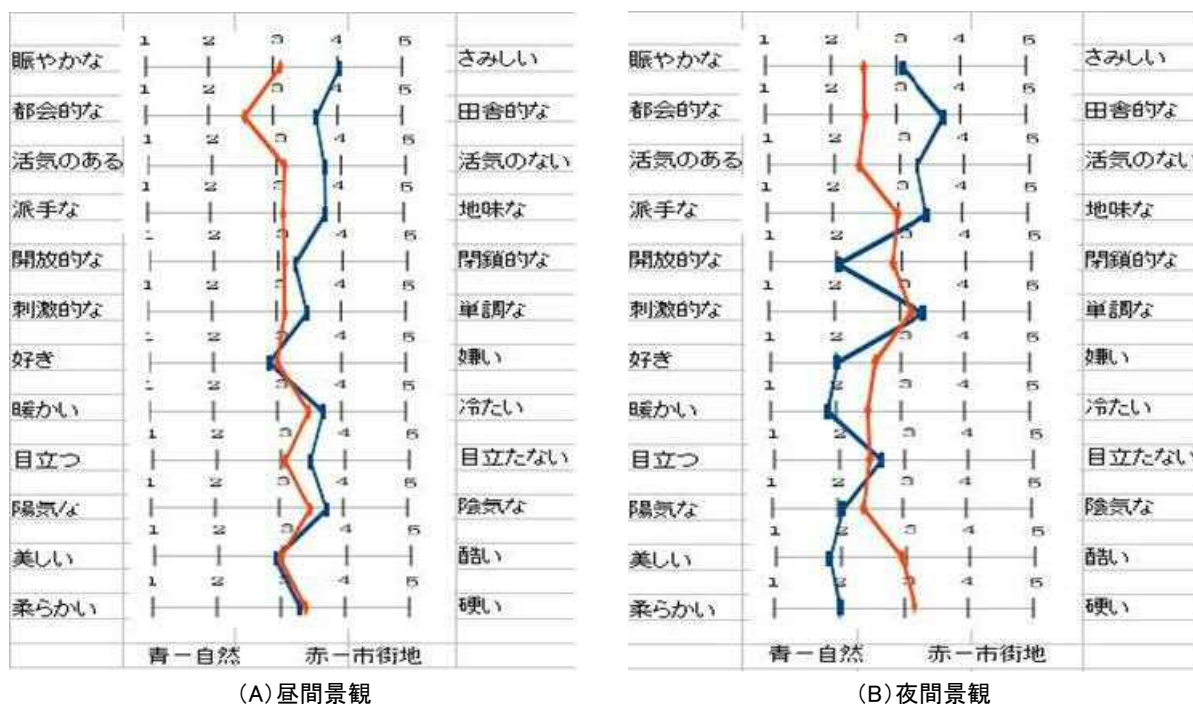


図2: 自然公園と市街地の比較

より夜間景観の特性を明らかにすることである。まず、尾張旭市を代表する自然公園や市街地から景観評価ポイント 6 個を選定し、同位置条件で撮影した昼間と夜間の景観写真を EXCEL ベースの評価シートに添付し、評価サンプルとした。評価尺度は、長山らが景観調査で使用した 27 形容詞対のうち、抽出された 3 因子を代表する 12 形容詞対を選び、中間値をゼロとする 5 段階評価とした。被験者は、本学学生 24 名で、うち女子学生 3 名である。

2.2 結果

夜間景観全体の評価平均は、中立評価をやや下回る -0.41 の評価であった。一方、昼間景観の評価平均は 0.34 であり、昼間より夜間の景観評価が低い。全サンプルで、すべての評価項目において、昼間景観に比べて夜間景観の評価が低いことが分かった。特に、「暖かい-冷たい」と「陽気な-陰気な」の項目で昼間景観との差が大きい。

自然公園の場合、夜間景観の評価平均は -0.81 で、昼間の評価平均 0.37 に較べてかなり低い。これに対して、市街地の夜間景観の評価平均は 0.12、昼間景観は 0.34 である。昼間景観の評価では、自然公園 - 市街地の格差が少ないことがわかった。自然公園の昼間景観では、評価性と顕在性に属する項目の評価が高く、市街地では、僅かだが活動性

と評価性に属する項目の評価が高い。

3. 考察

尾張旭市における調査では、ほぼすべての評価項目において、夜間景観よりも昼間景観の方が評価が高くなった。長山らが行った金沢市の調査では、全体的に夜間景観の評価が昼間景観よりも高くなっていたのとは対照的である。尾張旭市では、特に、自然公園の夜間景観の評価が低い。自然公園の昼間景観は評価性・顕在性が高く、夜間景観は活動性評価が低下する。昼間景観の好印象が逆に、夜間景観にネガティブな評価を与えた可能性がある。自然公園の規模が大きく、夜間は周辺道路の交通量も少ないことから、夜間景観は「さみしい」「冷たい」などの印象を与える。

尾張旭市と金沢市の調査結果を比較すると、「賑やかな-さみしい」「暖かい-冷たい」「目立つ-目立たない」などの項目で、金沢市の夜間景観評価平均が、尾張旭市を大きく上回っている。さらに「派手な-地味な」・「刺激的な-単調な」・「都会的な-田舎的な」の項目でも、金沢市の夜間景観評価が高評価を受けており、昼間と夜間の評価差がほとんど見られない。金沢市は夜間景観行政の成功例として注目される都市で、夜間景観に対する市民の関心が高いと考えられる。

まとめ

SD法を用いて尾張旭市の夜間景観の特徴分析を行った。市内6か所の景観評価ポイントについて、夜間景観と昼間景観の評価スコアを比較したところ、ほぼすべての項目において、夜間景観の評価が低いことがわかった。昼間景観は評価性・顕在性が高く、夜間景観は活動性評価が低下することから、昼間景観の好印象が逆に、夜間景観にネガティブな評価を与えている可能性が考えられる。自然公園の規模や道路の交通量も景観評価に影響する。

参考文献

1. 愛知県尾張旭市, 尾張旭市都市景観基本計画, (2000)
2. 愛知県, 美しい愛知県づくり基本計画, (2006)
3. 乙部暢宏, 後藤春彦, 李永桓, 関口信行, 地方自治体による夜間景観整備の現状と課題, 日本建築学会計画系論文集, 73(626), 803-810, (2008)
4. 樋口忠彦, 玉川英則, 明間寛治, 都市景観の識別度に関する昼と夜の比較研究, 日本建築学会計画系論文報告集, (388), 79-85, (1988)
5. 柳瀬亮太, 酒井史紀, 街路灯間隔と夜間街路の印象および認知距離の関係, 日本建築学会計画系論文集, (601), 139-144, (2006)
6. 長山信一, 高松衛, 中嶋芳雄, 森田力, 金沢市の夜間都市景観照明の評価に関する研究, 映像情報メディア学会技術報告 26(29), 1-6, (2002)
7. 高松衛, 中嶋芳雄, 長山信一, 夜間都市景観照明の評価に関する研究, 日本色彩学会誌, 25(2), 136-140, (2001)

付録 景観評価用写真

①長池：自然公園



②維摩池：自然公園



③ グリーンロード：自然公園



④ 三郷交差点付近：市街地



⑤ 尾張旭駅周辺：市街地



⑥ 瑞鳳橋：市街地

